

旭川市校務DX計画

1 はじめに

本市では、これまで各学校に校務用パソコンやネットワークサーバーなどの情報機器等を整備し、校務の情報化に取り組んできた。その後、部分的に統合型校務支援システムの導入を進め、教職員間での情報共有や資料共有がスムーズに行われるようになっていく。

GIGAスクール構想で端末及びクラウド環境が整備された際には、特にクラウド環境については、授業で活用する前に新しい環境をまず校務から活用し、その有効性や課題等について知ることから始めた。このことが、その後の授業活用推進の重要なポイントとなった。具体的には、情報共有や意見集約、資料共有にクラウド環境を使う取組を始め、これにより情報の一元管理や迅速な情報伝達が可能となり、業務の効率化が図られた。

GIGA環境整備後の3年間で、校務の情報化は大きく変化しつつある。クラウド活用は進んでいるが、機微情報は従来どおり、校内サーバーや校務支援システムを活用している。

2 現状

令和6年度全国学力・学習状況調査学校質問紙にある校務の情報化に関する質問回答の結果を図1に示す。

校務の情報化による効率化について、「十分に取り入れている」と回答した小学校が64.0%、中学校で60.0%で、全国と比較して倍以上になっている。

令和5年度に市内全校が回答した文科省「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」の自己点検結果のうち、本市の多くの学校（80%以上）で実施される項目を次に示す。これら項目については、早急に全校で確実に実施できるよう取り組みを進めていく。

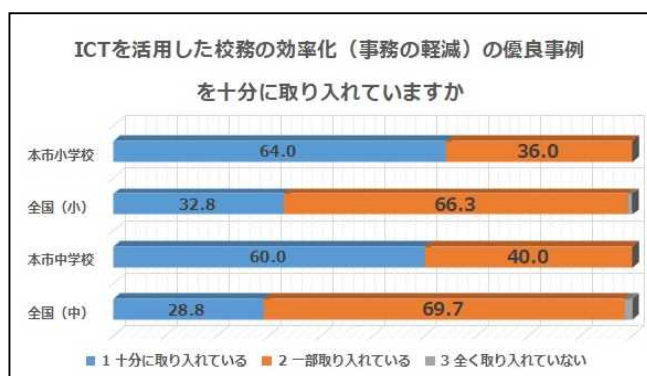


図1 令和6年度全国学力・学習状況調査

質問事項（半分以上行っていると回答した学校の割合）	本市	全国
職員間の情報共有や連絡にクラウドサービスを取り入れていますか。	80.5	72.0
校内研修について、オンデマンド視聴を取り入れていますか。	80.5	46.1
職員会議等の資料をクラウド上で共有しペーパーレス化していますか。	98.7	90.4

保護者への調査・アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計していますか。	91.0	84.4
教職員への調査・アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計していますか。	92.3	91.5
学校徴収金について、現金徴収ではなく、口座振替、インターネットバンキング等を活用して徴収金の徴収を行っていますか。	94.8	82.7
児童生徒への調査・アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計していますか。	93.6	79.6

次の項目の実施率は、50%未満であるため、今後、多くの学校で実施されるよう、先行している学校の取組状況を共有していく。

(半分以上行っていると回答した学校の割合)	本市	全国
長期休暇期間の教職員の動静調査をクラウドサービスを用いて実施・管理していますか。	32.5	29.1
児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡について、クラウドサービスを用い、PC・モバイル端末等から受け付け、学校内で集計していますか。	35.1	65.2
授業研究会や校内研修等をハイブリッドで実施していますか。	15.6	41.8
クラウドサービス等を活用し、定期テストにCBTを取り入れていますか。	7.8	8.6
宿題（長期休暇中）をクラウドサービスやデジタルドリル教材を用いて実施・採点していますか。	19.5	67.5
教職員から学校へ提出する事務手続き資料をクラウドサービスを用い、受け付けていますか。	33.8	41.2
職員会議等をハイブリッドで実施していますか。	15.6	14.6
1人1台端末のパスワードについて教職員が把握し、一括で管理するのではなく、児童生徒に管理を任せていますか。	26.0	39.0
「初等中等教育段階における生成AIの利用に関する暫定的なガイドライン」に基づき生成AIを校務で活用していますか。	33.8	23.2
学校から教職員に紙で提出を求めている書類はありますか。 (ないと回答した割合)	6.5	4.5

保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類はありますか。（ないと回答した割合）	14.3	12.8
業務に FAX を使用していますか。（使用していないと回答した割合）	1.3	4.1

3 今後の計画

（１）クラウドを活用した校務効率化の推進と次世代校務支援システムの構築

「２ 現状」のとおり、全国の状況に比較すると、一定程度取組を推進した成果はあるものの、本市全体として校務ＤＸが十分に進んでいるとは言いがたい側面がある。これは、学校だけではなく、教育委員会を含む全体の課題でもある。そのため、改めて業務や帳票等を見直し、ＦＡＸの使用、紙媒体での提出書類や押印を段階的に廃止していく。ただし、この取組は、本市単独では解決できない課題もあることから、関係機関との連携を進めていく。

従来の校務支援システムは、校務用サーバーで使用しており、今後はセキュリティを確保した上で、校務支援システムをクラウド上で使用できる環境を構築することにより、さらなる校務ＤＸの推進を目指す。

（２）教育データ活用の推進

１人１台端末とクラウドの活用により、従来の紙媒体だけでは収集できなかった学習活動での各種教育データ（教材・学習ツールの活用履歴など）のログを取得することが可能になる。先進自治体では、この学習ログに加え、従来から記録している出席などの情報を統合し、可視化・分析するダッシュボードの整備に取り組み始めている。今後、先進自治体等を参考に整備を進め、校務と授業の両方の改善を進めていく。

（３）その他

クラウド環境の活用による校務ＤＸにより、業務改善のみならず、教職員間の連絡体制が従来よりも格段に向上し、児童生徒の安全管理にも役立っている。今後は、情報保護の観点から、クラウドセキュリティの強化を進めていく。